

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	「好き・書く・体力」のグローイングアップを実現	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	○「好き」になる授業づくり ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ・学びのシンポジウム実施 ・小中授業連携 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施	○「好き」になる授業づくり ・小中授業連携 ・太田中公開授業・検討会 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○他教科・校種間連携 ・1つの教科にとらわれず、様々な教科や分野で連携を深める。 ○「体力づくり」 ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施
確かな学力の育成	表現することを楽しむ子どもの育成	○安心できる授業スタイル ・スクールスタンダードに基づいた、どの学級でも同じ授業スタイル。 ・「めあて」を明確にした授業。 ・「ふりかえり」を行い、学習内容の確実な定着につなげる。 ○書く力（記述力）の向上 ・学校全体での「書く」取組。 ・語彙を増やす取組みの実施。 ・表現しにくい児童への支援 ○「国語が好き」になる授業改革 ・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造。 ・読書活動の活性化の継続 ○「算数が好き」になる授業 ・問題解決型の授業の継続。 ・『ふりかえり3つの観点』の活用。 ○学力低位層・エンパワー層を減らす。 ・補充学習の実施。 ・習熟を図るための取り組み、計算タイムの実施。 ○家庭学習の定着 ・学期に一度の家庭学習週間の実施。	○安心できる授業スタイル ・スクールスタンダードに基づいた、どの学級でも同じ授業スタイル。 ・「めあて」を明確にした授業。 ・「ふりかえり」を行い、学習内容の確実な定着につなげる。 ○書く力（記述力）の向上 ・学校全体での「書く」取組。 ・語彙を増やす取組みの実施。 ・表現しにくい児童への支援 ○「国語が好き」になる授業改革 ・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造。 ○「算数が好き」になる授業 ・問題解決型の授業の継続。 ・『ふりかえり3つの観点』の活用。 ○学力低位層・エンパワー層を減らす。 ・補充学習の実施。 ・習熟を図るための取り組み、計算タイムの実施。 ○家庭学習の定着 ・学期に一度の家庭学習週間の実施。	○安心できる授業スタイル ・スクールスタンダードに基づいた、全学級同じ授業スタイル。 ・「めあて」を明確にした授業。 ・「ふりかえり」を行い、学習内容の確実な定着につなげる。 ○書く力（記述力）の向上 ・学校全体での「書く」取組。 ・語彙を増やす取組みの実施。 ・表現しにくい児童への支援 ○「国語が好き」になる授業改革 ・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造。 ○「算数が好き」になる授業 ・問題解決型の授業の継続。 ・『ふりかえり3つの観点』の活用。 ○学力低位層・エンパワー層を減らす。 ・補充学習の実施。 ・習熟を図るための取り組み、計算タイムの実施。 ○家庭学習の定着 ・学期に一度の家庭学習週間の実施。

		○「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 ・ペア・グループ活動を通した言語活動への充実	○「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 ・ペア・グループ活動を通した言語活動への充実	○「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 ・ペア・グループ活動を通した言語活動への充実
豊かな人間性を育む	一人ひとりの違いを認め合い、支えあうことのできる子どもの育成	・校内授業研の実施。 ・子どもたちをつなげるワークの実施。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・地域の人とのつながりを大切にする。 ・キャリア教育の実施 ・道徳の授業の充実。	・校内授業研の実施。 ・子どもたちをつなげるワークの実施。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・地域の人とのつながりを大切にする。 ・キャリア教育の実施 ・道徳の授業の充実。	・校内授業研の実施。 ・子どもたちをつなげるワークの実施。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・地域の人とのつながりを大切にする。 ・キャリア教育の実施 ・道徳の授業の充実。
健康・体力の増進	体を動かすこと大好き！な子どもの育成	○運動習慣を身につける（マラソン・なわとび） ・休み時間の外遊びの励行 ・休み時間の体育館開放 ○「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造 ・公開授業の実施 ・保健体育部によるカリキュラムの整理 ・学年授業研究の実施 ・茨木っ子運動の実施 ・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用	○運動習慣を身につける（マラソン・なわとび） ・休み時間の外遊びの励行 ・休み時間の体育館開放 ○「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造 ・公開授業の実施 ・保健体育部によるカリキュラムの整理 ・学年授業研究の実施 ・茨木っ子運動の実施 ・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用	○運動習慣を身につける（マラソン・なわとび） ・休み時間の外遊びの励行 ・休み時間の体育館開放 ○「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造 ・公開授業の実施 ・保健体育部によるカリキュラムの整理 ・学年授業研究の実施 ・茨木っ子運動の実施 ・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用
支 援 教 育 の 充 実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査



(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・「知りたいこと」に対して必要な情報がどこにかかれているか目次から適切なものを選ぶ設問の解答率がもっとも高かった。
- ・条件に合わせて書く設問は、もっとも解答率が低かった。
- ・最後の設問の条件に合わせて書く設問は、無解答率がもっとも高かった。時間配分にも課題がある。

【分析】

国語においては、複数の情報を結び付けて適切にまとめることを問われた問題の正答率が最も低かった。特に、様々な資料から必要な情報を読み取り、要約する力に課題がある。インターネットが発達したこれからの社会において、適切な情報を取捨選択し、自分自身の意見を持って相手に伝える力がより大切になる。こうした力をつけるには、授業の内容を理解させるだけでなく、子どもたちが自分で考え、議論する「探究」の時間が欠かせない。また、記述力を上げるために、文の構成を意識した「読み」や、相手に伝わるように自分の考えや出来事を書く文作り等にも取り組む必要があると考える。

また、「国語の授業はあまり好きではない」と答えている児童が多いことから、国語の授業の改善が必要であると考ええる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

①数と計算	概ね良好な結果であった
②量と測定	良好な結果であった
③図形	概ね良好な結果であった
④数量関係	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)	概ね良好な結果であった
--------	-------------

(その他)

- ・複数の図形から台形を選ぶ設問の正答率をもっとも高かった。
- ・四則計算の法則を、減法の方法をもとに除法の方法を記述で答える設問の正答率をもっとも低かった。無解答率も最も高かった。

【分析】

正答率は全国と比較してほぼ上回り、本校が学校全体で取り組んでいる、問題解決型の学習（児童が主体的に課題を見つけ、解決していく）の成果が見られたと言える。また、無解答率が減少していることから、最後まで諦めずに問題に取り組もうとする意欲が見て取れる。しかし、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を記述する問題は、全国共に正答率が低く、これまでの傾向から、数学的理解力というより、論理的説明能力に課題が見られると分析する。

また、「算数の勉強が好き」と答えている児童が多いことから、全ての児童がわかる授業づくりを心がけてきた成果と言える。今後も学校全体で研究・実践を積み重ねていきたい。

〇●経年比較●〇

【全体的な傾向についての分析】

算数は、昨年度同様、全国と比較して良い結果となった。

国語は、昨年度に引き続き、内容を要約し、記述する問題に課題が残る結果となった。

国語、算数共に記述問題の無解答率が増加している。

【学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析】

学力高位層と低位層との二極化が進んでいる。
学力低位層を減少させるための更なる取り組みを検討するが必要である。

〇●取り組み●〇

【学力向上に関する取り組み】

●「国語が好き」になる授業改革

- ①子どもたちが生き生きと学ぶ姿を中心とした授業づくり、子どもたちが主体的に学べる授業づくりの研究の継続と更なる追求。
- ②国語科（「書く」を中心とした）研究授業を実施。

●書く力（記述力）の向上にむけての取り組み

- ①「書く活動」の充実
全ての教科で「書く」を意識した授業改善を図る。「書くこと」に対する苦手意識や、抵抗感をなくしていくための工夫を行う。また、自分の考えを書く際に「理由を書く」「まとめる」「説明する」等の活動の機会を充実させ言語運用能力を高める授業づくりを目指す。
- ②語彙力をつけるための取り組み。
- ③文の構造に焦点を当て、全学年で系統立てた指導の充実。

●学力低位層を減らす取り組み

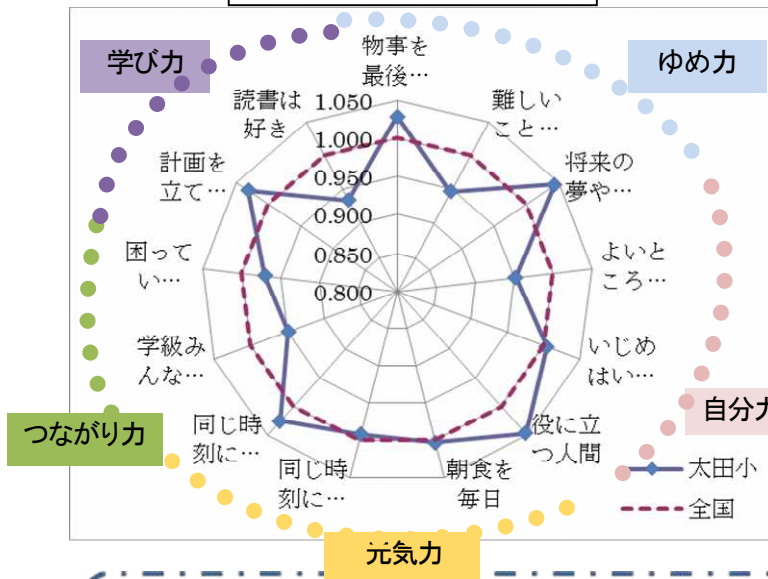
- ①補充学習の充実
学習に課題のある児童を対象に、高学年を中心とした授業時間外での補充学習の校内体制を確立させ、担当外、学習支援者を中心に実施継続。
- ②計算タイムの取り組みによる基礎基本の習熟の継続。
計算タイム用プリント活用を実施継続。モジュール実施による朝学習減少のため、週1回は必ず計算タイムの時間を確保する。

●家庭学習の定着・充実に向けた取り組み

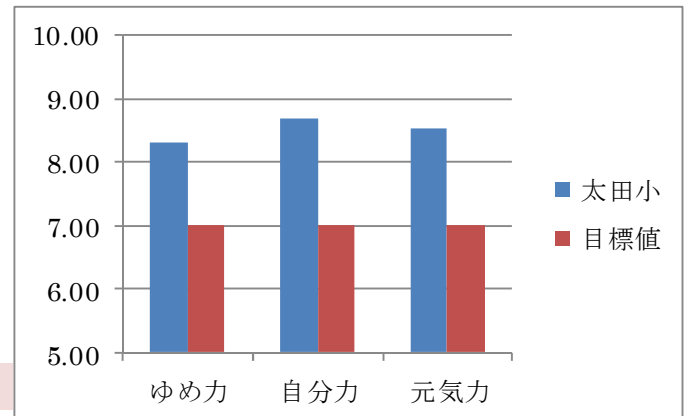
- ①家庭学習の定着・充実を図るため、各学期に一回「家庭学習週間」の実施。
- ②ゲームやテレビの視聴時間を減らし、生活リズムを整えていくための家庭への働きかけ・発信の継続。
- ③予習、復習、自主的・計画的な学習の充実に向けた学校全体の取り組みの検討。
- ④モジュール実施による読書タイムの削減から、家庭学習で読書量を増やす。
- ⑤「書く」力向上に向け、家庭学習で作文や日記を書くことに取り組む。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と元気力』のみとなっています。

【分析】

ゆめ力

- 「難しいことでも失敗を恐れず挑戦しますか？」という問いについて、否定的な回答が目立つ。成功体験を増やし、自己肯定感を高め、更なる目標に向けて努力しようとする意欲を育てる必要がある。

自分力

- 「自分には良いところがある」という問いについて、否定的な回答が目立つ。しかし、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的な意見も多いことから、様々な活動を通して規範意識と責任感を培う必要がある。

元気力

- ほぼ全国値を上回り、「きちんと朝食を採っている」など、基本的な生活習慣が身についていると言える。しかし、スマートフォンやインターネットの長時間の視聴による睡眠不足は、見過ごせない課題である。

つながり力

- 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、嬉しかったことはありますか」「人が困っている時は、進んで助けますか」という問いに対して、否定的な回答が目立つ。集団生活の中で、仲間と協力してやり遂げた時の達成感から、協調性を養う。

学び力

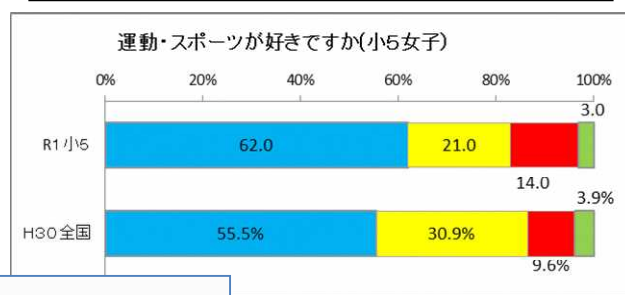
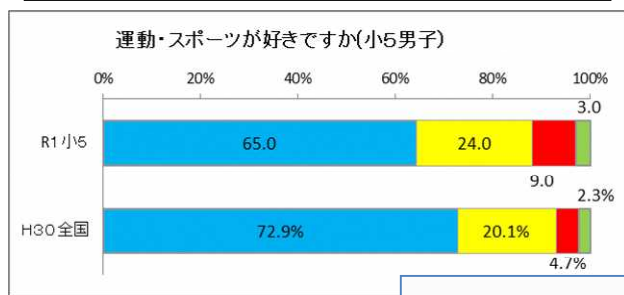
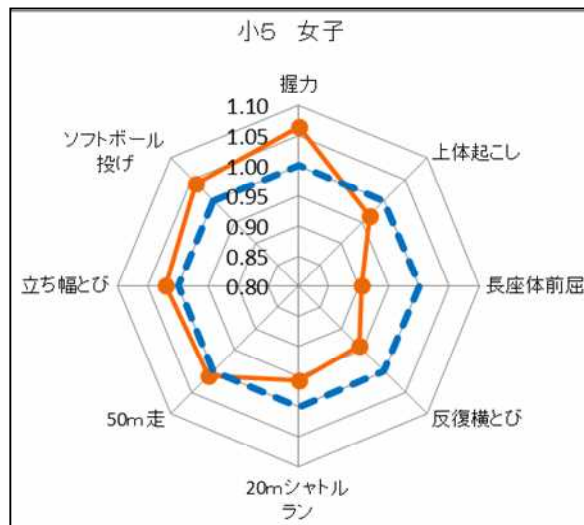
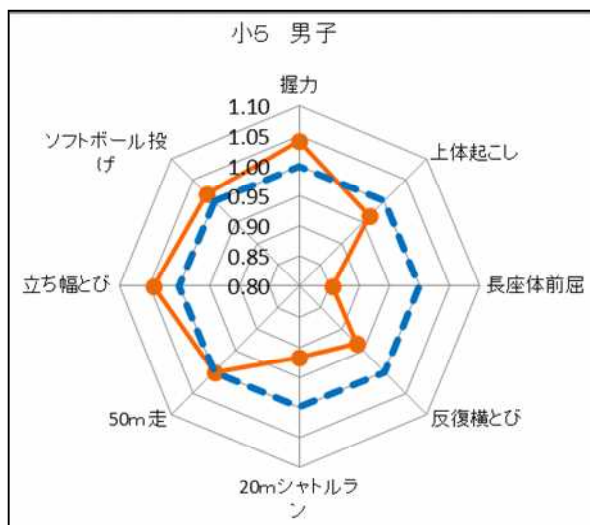
- 学習習慣にやや課題が見られ、宿題以外の学習を計画立てて行っていない児童が多く見られた。
- 読書好きが少ないため、本に触れる機会を増やし、読書の楽しさを知るための取り組みが必要。

【取組み】

- 子どもの自主性を高めるために、自分たちで学校の問題に向き合い、より良い学校にするための企画立案ができるよう促す。
- すべての子どもが安心して授業を受けることができるための環境づくり（ツール）や、心から安心して楽しんで学校に来られるように、教師が子ども同士をつなげる役目となる。
- ペア学年交流を通して、異学年とのつながりを図る。
- 繰り返し自分たちで何かを達成したという経験を積み重ねる。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○



分析

- 概ね良好な結果・・・50m走・握力・ソフトボール投げ・立ち幅跳び
- 課題のある結果・・・上体起こし・反復横跳び・長座体前屈・20mシャトルラン
- 以上の結果より、俊敏性・柔軟性・持久力に力を入れていく必要がある。
- 男女ともに、昨年度より握力の数値が上がっており、向上が見られる。
- 運動・スポーツが好きですかというアンケート結果より
 - 男子・・・肯定的な回答が、全国平均を少し下回っている。
 - 女子・・・肯定的な回答が、全国平均を少し下回っている。
- 以上の結果より、「またやりたい」「楽しかった」と思えるような授業の追求が必要である。

取り組み

(1) 運動習慣につなげる取り組み

- ①マラソン期間の設定…マラソンカードの配布。6年生が西河原との合同マラソン大会(案)。
- ②なわとび…ジャンピングボードを設置。学習カードの配布。
- ③休み時間の体育館使用 委員会と連携した外遊びの提案・励行

(2) 授業改善「楽しい(またやりたい)」「汗をかく(運動量の確保)」「できた!」と言える授業の追求。

①校内講習会

- ・学期に1度のペースで、講習会を行う。(例:器械運動、陸上運動など)

②環境づくり「マット・とび箱」

- ・校内で行う期間を決め、使いやすいように外に出しておく。
- ・体育館内に掲示物を貼ったり、タブレットを使ったり、動きの確認をできるようにする。

③学習カードや副読本の活用

- 子どもたちが自分のめあてを設定し、それに向けて練習方法を工夫する授業を追求する。
- 評価にも活用する。

④茨木っ子運動やストレッチの実施

- 毎回の体育の時間に実施。体幹を鍛え、体のコンビネーションや柔軟性を高める。